

# 「五黄の寅年」にあたり

木古内町議会議長

又 地 信 也



新年あけましておめでとうございませす。令和四年「五黄の寅年」の幕明けです。

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。三十六年に一度の「五黄の寅年」何かしら希望と期待、そして念願がかなえられる年、そんな一年になるのでは、と胸ふくらませ迎えられた新年ではないでしょうか。

昨年、一昨年と新型コロナウイルス感染症の流行で世界中がウイルスとの闘いでありました。また年末には新異種株、オミクロン株がアフリカで発症し世界各国にまん延の兆しを見せています。我が国にもその波が押しよせている様に感じられます。そんな中、三回目のワクチン接種が始まる様ですが、見えないウイルスとの闘いがいつまで続くのか、人類の危機をどう乗り越えられるのか、アフターコロナに向けた協

力と助け合いがどこまで進み、届くのか人類にとって最大の試練です。

日常生活では色々な規制を受け身にしみて不便を感じ、交流の場を失い家庭はもとより職場にあっても息苦しさを感じた二年間でありました。本年も同じような環境の中での生活様式が余儀なくされる事を覚悟しなければなりません。町民一人一人が今一度辛抱を重ね忍耐強くコロナに打ち勝つ努力をしなければなりません。木古内町民は必ず出来ると私は信じます。

コロナ禍の中で開催されたスポーツの祭典、東京オリンピック、パラリンピックは沢山のアスリートの皆さんの活躍で成功をおさめ世界中からおしめない賛辞をいただきました。我が国の力を表明でき、強い誇りを抱くことができた祭典だったと感じております。内政では菅政権から岸田政権へと移り

ました。

沢山の難題をかかえているのが現状です。私達、地方に生きる者が大きな声を発する事が必要です。持続可能な国土形成には地方が持続可能でなければなりません。安全で安心して生活出来るまちづくりを基本とした保健、医療、福祉の充実、地場産業の育成と振興策は一体のものでなければなりません。

人口減少対策と底力のある産業振興の進展を目指し議会と行政が切磋琢磨する中で町民の附託に答える政策を議論し合意形成にたどりつくための努力を惜しむことがあつてはなりません。そんな思いの中、昨年六月第二回町議会定例会で議会改革特別委員会を立ち上げました。主たる目的は議員定数と議員報酬を取り上げ他11項目による内容です。全国各地の町村議会では議員のなり手不足が大きな問題となっており無投票当選が多く見られます。全国町村議会議長会ではここ数年来その対策、対応を論じて来たところですが。当

町では無投票当選は過去にも例はありませんが将来を見据え議論しております。若い人、女性の方に門扉を開くことを念頭に時代に即した議会改革を進め町民の理解を得るため議員一同研鑽を重ね努力してまいります。また昨年11月2日には類まれなる豪雨と強風、落雷とヒョウによる被害に見舞われました。

幸いにして人的被害がなかったことがせめてもの救いだったと思います。災害のない木古内町をPRしてきましたが、この度の経験を活かした防災対策の見直しをする必要があると強く感じました。有事の場合の議会の役割についても全員協議会の中での検討課題と致しました。行政対応ばかりでなく議会としてもその一翼を担う決意であります。

結びに、コロナ禍の中ではありますが、「五黄の寅年」。何かしら良き一年になりそうな想いを抱きつつ町民の皆様のご健勝とご多幸を祈願し念頭の御挨拶と致します。